

# 2024年度 徳島文理大学 理学療法学科

## 雇用主アンケート調査結果報告書

### 調査概要

#### ○ 調査目的

本アンケートは、徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科の教育内容と、卒業生が職場で実践している能力との整合性を評価するために実施しています。具体的には、卒業生が職務遂行上、必要とされる知識や技術、コミュニケーション能力、倫理観などをどの程度身につけているかを、雇用者の視点から評価していただき、現場での実践力を確認します。これにより、卒業生がどのような分野で強みを発揮しているか、また、どのようなスキルが今後さらに強化されるべきかを明確にすることを目指しています。

さらに、今後卒業生に求められる資質や能力についても、選択肢から優先順位をお聞きすることで、実際の職場で重要視されている要素を教育カリキュラムに反映させるための貴重な意見をいただくことが狙いです。このアンケート結果を通じて、理学療法士としての教育内容をより実践的で効果的なものにするためのフィードバックを得て、卒業生の即戦力としての能力向上を目指すとともに、大学と雇用者との連携強化を図ります。今後の教育改善に向けた具体的な施策の検討に役立ててまいります。

#### ○ 調査対象

2019年3月から2023年3月卒業生が入職した事業所

#### ○ 調査期間

2024年9月18日（水）～2024年9月29日（日）

#### ○ 調査方法

郵送によりアンケート用紙を送付。回答は紙媒体、Google form を利用。

#### ○ 回答率

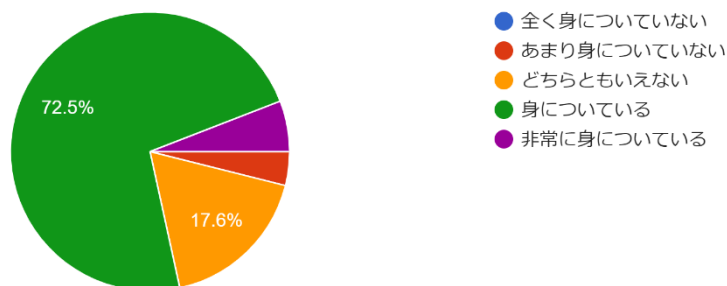
51 / 132 (39%)

1 本学卒業生は職務遂行上、必要とされる以下の能力がどの程度、身についていますか。複数の採用者がいる場合は、全体のイメージでお答えください。

【知識・理解】

・基本的知識、健康と障がいに関する知識

【知識・理解】 基本的知識、健康と障がいに関する知識



全く身につけていない 0

あまり身につけていない 2 (3.9%)

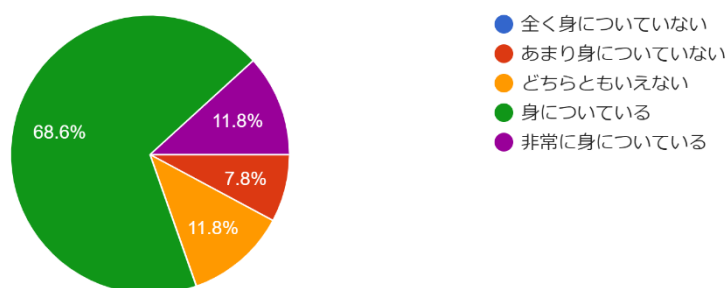
どちらともいえない 9 (17.6%)

身につけている 37 (72.5%)

非常に身につけている 3 (5.9%)

・患者やその家族との適切なコミュニケーション能力

【知識・理解】 患者やその家族との適切なコミュニケーション能力



全く身につけていない 0

あまり身につけていない 4 (7.8%)

どちらともいえない 6 (11.8%)

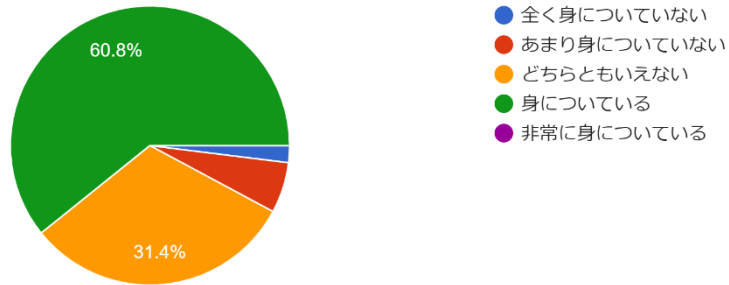
身につけている 35 (68.6%)

非常に身につけている 6 (11.8%)

## 【汎用的技能】

### ・リハビリテーション技術の基礎力

【汎用的技能】 リハビリテーション技術の基礎力



全く身についていない 1 (2.0%)

あまり身についていない 3 (5.9%)

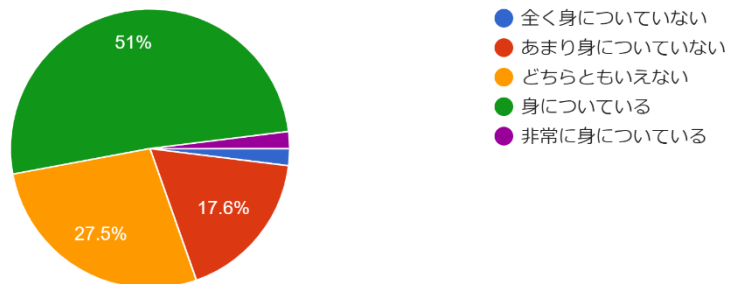
どちらともいえない 16 (31.4%)

身についている 31 (60.8%)

非常に身についている 0

### ・患者の状態を的確に評価し、適切な治療プランを立案する能力

【汎用的技能】 患者の状態を的確に評価し、適切な治療プランを立案する能力



全く身についていない 1 (2.0%)

あまり身についていない 9 (17.6%)

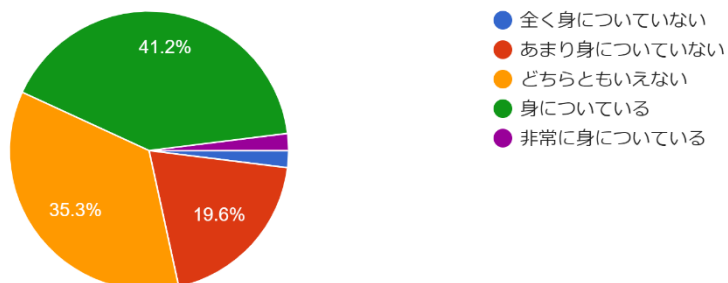
どちらともいえない 14 (27.5%)

身についている 26 (51.0%)

非常に身についている 1 (2.0%)

・修得した最新の知識や技術を、実際の臨床場面で効果的に活用する能力

【汎用的技能】 修得した最新の知識や技術を、実際の臨床場面で効果的に活用する能力



全く身についていない 1 (2.0%)

あまり身についていない 10 (19.6%)

どちらともいえない 18 (35.3%)

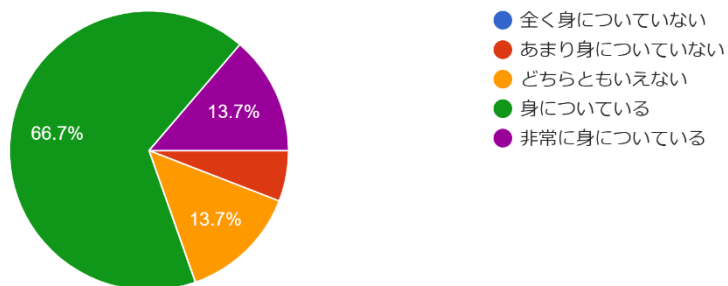
身についている 21 (41.2%)

非常に身についている 1 (2.0%)

【態度・指向性】

・理学療法士としての倫理観や価値観

【態度・指向性】 理学療法士としての倫理観や価値観



全く身についていない 0

あまり身についていない 3 (5.9%)

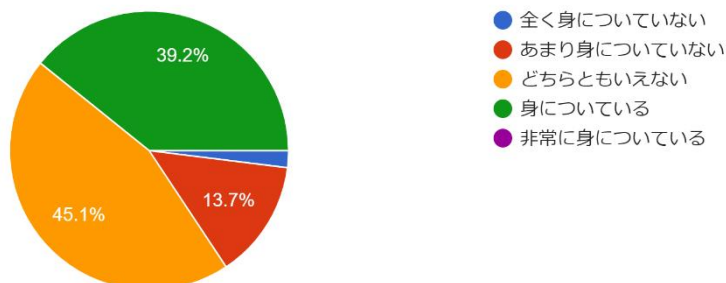
どちらともいえない 13 (13.7%)

身についている 34 (66.7%)

非常に身についている 7 (13.7%)

・複雑な問題に対して理論的かつ一貫したアプローチで考える能力

【態度・指向性】 複雑な問題に対して理論的かつ一貫したアプローチで考える能力



全く身についていない 1 (2.0%)

あまり身についていない 7 (13.7%)

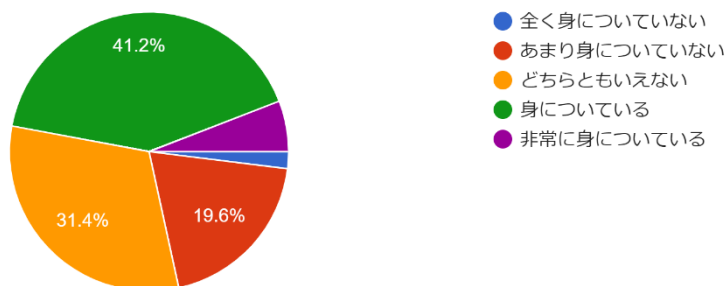
どちらともいえない 23 (45.1%)

身についている 20 (39.2%)

非常に身についている 0

・臨床現場で直面する問題を的確に判断し、適切な解決策を見出す力

【態度・指向性】 臨床現場で直面する問題を的確に判断し、適切な解決策を見出す力



全く身についていない 1 (2.0%)

あまり身についていない 10 (19.6%)

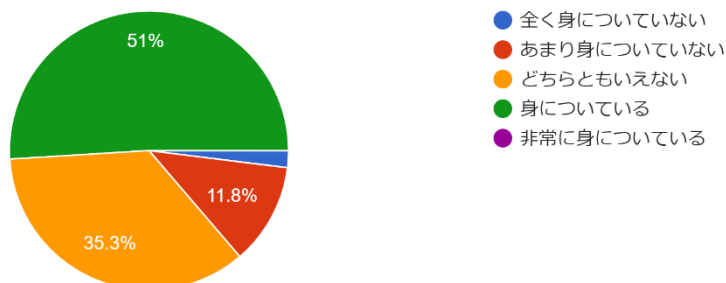
どちらともいえない 16 (31.4%)

身についている 21 (41.2%)

非常に身についている 3 (5.9%)

・科学的な根拠に基づいた治療法を選択し、患者に対して最適なケアを提供する能力

【態度・指向性】 科学的な根拠に基づいた治療法を選択し、患者に対して最適なケアを提供する能力



全く身についていない 1 (2.0%)

あまり身についていない 6 (11.8%)

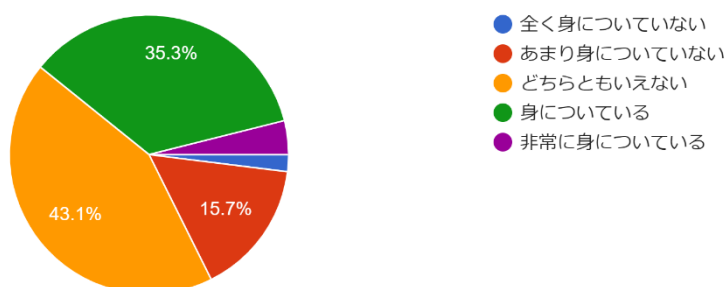
どちらともいえない 18 (35.3%)

身についている 26 (51.0%)

非常に身についている 0

・新しい技術や方法の効果を評価し、自分の臨床実践に最適化する能力

【態度・指向性】 新しい技術や方法の効果を評価し、自分の臨床実践に最適化する能力



全く身についていない 1 (2.0%)

あまり身についていない 8 (15.7%)

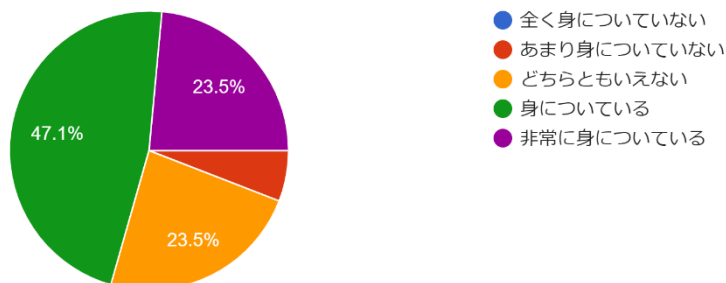
どちらともいえない 22 (43.1%)

身についている 18 (35.3%)

非常に身についている 2 (3.9%)

## ・他の医療スタッフや患者との協力関係を築く力

【態度・指向性】 他の医療スタッフや患者との協力関係を築く力



全く身についていない 0

あまり身についていない 3 (5.9%)

どちらともいえない 12 (23.5%)

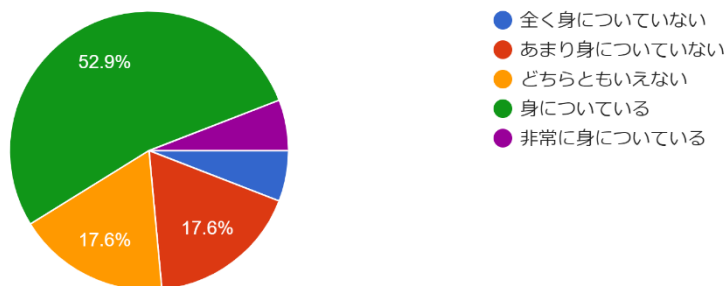
身についている 24 (47.1%)

非常に身についている 12 (23.5%)

## 【自己研鑽】

### ・継続的な教育・研修への積極的な参加姿勢

【自己研鑽】 継続的な教育・研修への積極的な参加姿勢



全く身についていない 3 (5.9%)

あまり身についていない 9 (17.6%)

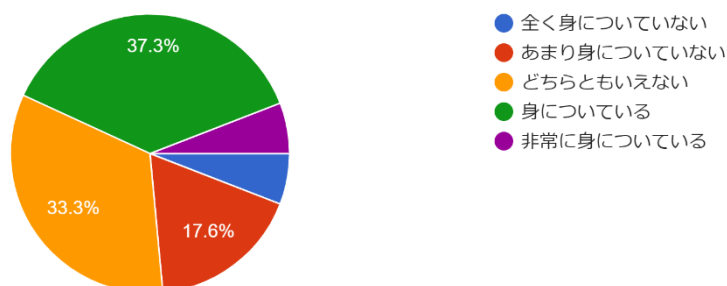
どちらともいえない 9 (17.6%)

身についている 27 (52.9%)

非常に身についている 3 (5.9%)

## ・常に最新の研究や技術について学び続ける姿勢

【自己研鑽】 常に最新の研究や技術について学び続ける姿勢



全く身についていない 3 (5.9%)

あまり身についていない 9 (17.6%)

どちらともいえない 17 (33.3%)

身についている 19 (37.3%)

非常に身についている 3 (5.9%)

### 総評

「知識・理解」に関しては、基本的な知識や健康・障がいに関する理解が十分に備わっており、現場で実践できていることが評価されています。また、患者やその家族とのコミュニケーション能力も高く評価され、信頼関係の構築ができていることが伺えます。

一方、「汎用的技能」や「態度・指向性」に関しては、最新の知識や技術の臨床活用に課題が残り、これらを効果的に取り入れる能力について評価が分かれています。特に、複雑な問題に対する一貫したアプローチや、科学的根拠に基づく治療法の選択に対して、さらなる成長が期待されているようです。

本学科が取り組むべき課題としては、卒業後も最新の知識や技術を継続的に学ぶための教育機会の提供が挙げられます。また、実践的なスキルや問題解決能力を強化するために、現場でのフィードバックを反映させたカリキュラムの見直しや、卒業生に対する継続的なサポート体制の強化を検討いたします。



参考 理学療法学科 ディプロマ・ポリシー

**【知識・理解】**

リハビリテーション（理学療法）の専門家として必要な基本的知識を修得している。また、健康と障がいに関する知識、情報収集の手段を修得している。更に、最新の知識に対する関心とその情報収集を心掛けることができる。

**【汎用的技能】**

高度で多様化するリハビリテーション（理学療法）に対応するための基本的な技能（技術）を修得している。また、その技能（技術）を一般の人たち、関連する分野の人たちに、的確に、分かり易く伝達することができる。更に、最新の知識（技術）の修得のために、その技能（技術）を活かすことができる。

**【態度・指向性】【自己研鑽】**

理学療法（士）に関する基本的な「理念（ideology）」と「哲学（philosophy）」を思考している。また、論理的思考、問題解決能力、協調性及びコミュニケーション（意思疎通）能力を身に付けている。更に、健康に関わる専門職（alliedhealth profession）として「根拠に基づく理学療法（evidence based physical therapyEBPT）」を思考することができる。このような観点から生涯を通して学習に対する意欲を継続的に持ち続けることができる。

2 今後、本学卒業生に求める資質と能力を以下の中から選択し、理由をお答えください。(優先順位が高いものを3つまで、1つは必須といたします)

1. 自己管理能力

- 仕事とプライベートをバランスよく管理し、健康な生活習慣を維持する力。

2. 時間管理能力

- 診療やリハビリテーションのスケジュールを効率的に管理し、期限内に業務を完遂する能力。

3. 目標設定と達成力

- 現実的な目標を設定し、それに向かって計画的に取り組み、成果を上げる力。

4. コミュニケーション能力

- 患者、同僚、他職種の専門家との円滑なコミュニケーションを通じて、情報を的確に伝達し、協力を得る力。

5. 対人関係力

- 他者との信頼関係を築き、協調性を持ってチームとして機能する力。

6. 問題解決能力

- 複雑な問題に対して分析し、効果的な解決策を見つけ出す力。

7. リーダーシップ

- チームやプロジェクトを率いて、目標達成に向けて他者を導く力。

8. 倫理的判断力

- 患者の尊厳と権利を守りつつ、倫理的に正しい判断を下す力。

9. 適応力

- 環境や状況の変化に柔軟に対応し、迅速に適応できる力。

10. 終身学習への意欲

- 常に新しい知識や技術を学び続ける姿勢を持ち、自己成長を図る意欲。

11. 公共心

- 社会全体の利益を考慮し、地域社会や公共の福祉に貢献する意識。

12. 文化的理解と対応力

- 異なる文化的背景を持つ患者に対して、文化的な感受性を持って適切に対応する力。

13. リソース管理能力

- 限られた資源(時間、物資、人材)を効果的に管理し、最大限に活用する力。

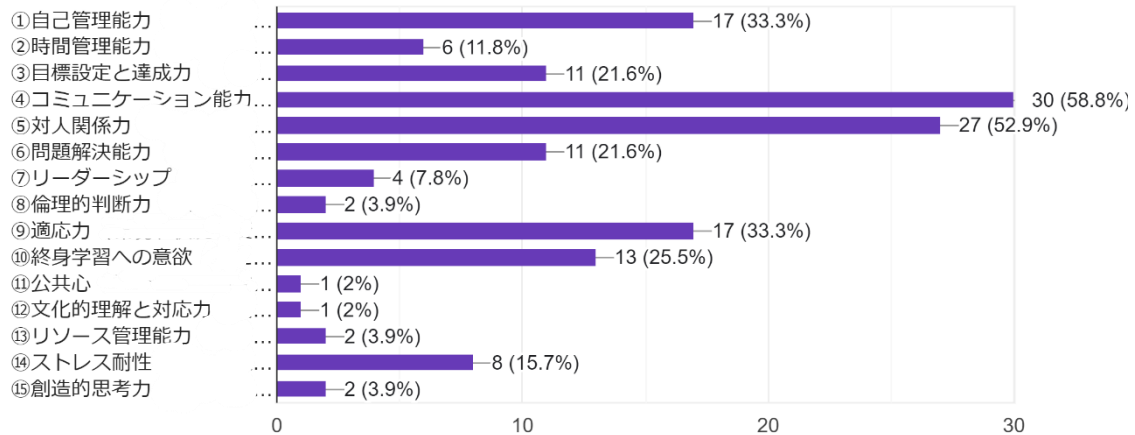
14. ストレス耐性

- 厳しい状況下でも冷静さを保ち、ストレスを適切に管理する力。

15. 創造的思考力

- 新たなアイデアや革新的なアプローチを考案し、実行に移す力。

2.今後、本学卒業生に求める資質と能力を以下の...高いものを3つまで、1つは必須といたします)



上記回答に対しての理由を入力してください。

### 1. 自己管理能力

- ・社会人の基礎スキルと考えているため。
- ・プライベートも大事にするべきだが、体調管理もしっかり行なって頂かないと患者様にご迷惑をおかけするため。
- ・本職業に限らず、ワークライフバランスが維持できることは何においても基本的なことであるとする。
- ・仕事ができる心身を維持することは、社会人として必須であるため。
- ・ストレス社会であるため、バランスよくプライベートと仕事を両立することは大事。仕事をすうえでも体調管理は大切だと考えるため。
- ・ワークライフバランスの管理をうまくできなければ効率的な仕事もできなくなる。プライベートもしっかり充実させてほしい。
- ・若いスタッフにコミュニケーションに問題を抱える者が増えており、今後は特に対人関係を円滑に築いていく能力が求められる。
- ・専門職としてよりもまず社会人として長期雇用で最低限必要な項目を選びました。
- ・リハスタッフの人数も多く回復期リハの特性もあり、チーム医療を推進しているため。

### 2. 時間管理能力

- ・リハビリテーションは時間に対する報酬設定となっているため。
- ・カルテ入力や患者の課題の整理など、リハビリテーション提供時間外の時間を有効に使うことが、サービス提供の質を上げ、患者様の機能改善・能力向上につながると考えています。
- ・病院として単位数取得目安があるなかで、残業も減らしつつ、円滑に業務を行う事が必要であるため。

- ・優先順位を決め効率よく業務遂行することが必要だから。

### 3. 目標設定と達成力

・目標なく介入や仕事をするケースを新人でよくみかけます。目標がないため何のためにしてるのか、言われたからそれをしてしているようなことがあり、仕事のモチベーション低下や臨床推論や考える機会の低下に繋がっているように感じます。

- ・能動的に計画実行することができない。
- ・リハビリ業務もさることながら個人目標も立て日々精進してほしいため。
- ・獲得可能な目標ゴール設定を考察することができる。
- ・指示待ちからの脱却。
- ・人間力を向上していく上で大切な要素と思っています。
- ・患者さんをどう良くしたいのか？自らがどうしたいか？の目標設定やその思考過程が曖昧。
- ・与えられた課題ではなく、普段から常に疑問も感じ、さらに具現化するために何が必要なのか探求することを、もう少し自発的に行なって欲しい。(貴学出身のスタッフに限りませんが)。
- ・これができればリハビリ・業務ともに進捗の確認や意見交換がしやすい。
- ・貴校に限らず、目標設定からの評価が基本であり、また患者様との信頼関係の構築、チーム医療が求められるため。

### 4. コミュニケーション能力

- ・社会人の基礎スキルと考えているため。
- ・患者様やそのご家族との円滑なコミュニケーションが、リハビリテーションの効果を高めます。また、特に子どもの課題・問題点は、運動面、情緒面、コミュニケーション面など多岐にわたり、より専門的知識を有する他職種の職員とコミュニケーションを取りながら情報を共有し、協力を得ながら問題解決を図ることが重要と考えます。
- ・若いスタッフにコミュニケーションに問題を抱える者が増えており、今後は特に対人関係を円滑に築いていく能力が求められる。
- ・仕事の中でコミュニケーションとは業務効率の向上やリスク管理に繋がります。新人をみると、仕事の相談や他職種連携が苦手な後手にまわることから、業務が遅くなることがよくあります。
- ・他職種に対しての説明することが難しい。
- ・複雑に絡んで起こるであろう問題の想定や対処方法などについて、深く考えることは避けていると感じる。
- ・貴校に限らず、目標設定からの評価が基本であり、また患者様との信頼関係の構築、チーム医療が求められるため。
- ・貴大学に限らず、コミュニケーション力の底上げが必要と感じる。入職後、当院では独自の研修を実施しているが、学生の間によりコミュニケーション力を向上するような取り

組みを推進いただけると心強いです。

- ・ 卒後教育で身につけさせるのが難しいコンピテンシーであり、採用においても重視しているから。

- ・ 相手が人である職業、信頼関係を構築する上で、必須のスキルと考えます。

- ・ 医療人として患者様を安心させられるコミュニケーション能力が必要。

- ・ 多くの職種が働く職場なのでリハビリ以外の分野と上手く付き合っていくことは非常に重要。これがないと②診療やリハビリテーションのスケジュールを効率的に管理し、期限内に業務を完遂する、⑥複雑な問題に対して分析し、効果的な解決策を見つけ出すことも遂行できない。

- ・ 多職種連携が必要。

- ・ 理学療法士として常に向上心を待ち、行動に出せることを期待します。

- ・ 入職した時点でコミュニケーション能力が不足し困るスタッフが多いと感じるため。

## 5. 対人関係力

- ・ ローテーションに対するの適応力

- ・ 主に障がいを抱える児童の施設であり、様々な職種が関わり、仕事を進めている。貴大卒の職員は協調性に富み、真摯に努力を重ねている。後に続く理学療法士もこうあって欲しい。

- ・ 専門職としてよりまず社会人として長期雇用で最低限必要な項目を選びました。

- ・ 貴校に限らず、目標設定からの評価が基本であり、また患者様との信頼関係の構築、チーム医療が求められるため。

- ・ 同期や年齢の近いスタッフとの関係性構築は問題ないが、他世代の上司／スタッフとの関係性構築は苦手、との印象があります。新人がチームに参加する場合、自然と年長者とかわることが多くなりますので、大学のカリキュラム中でのフォローを厚くしていただけると助かります。

- ・ 復期リハビリを実践するにあたり、チームアプローチが重要であるから。

- ・ リハスタッフの人数も多く回復期リハの特性もあり、チーム医療を推進しているため。

- ・ 対人関係を上手く構築できると大きな問題が生じにくい。

- ・ 卒後教育で身につけさせるのが難しいコンピテンシーであり、採用においても重視しているから。

- ・ 若いスタッフにコミュニケーションに問題を抱える者が増えており、今後は特に対人関係を円滑に築いていく能力が求められる。

- ・ 人間力を向上していく上で大切な要素と思っています。

- ・ 様々な職種と連携して、在宅復帰を目指していく事が高齢化社会としての課題となっているため。

- ・ 相手が人である職業、信頼関係を構築する上で、必須のスキルと考えます。

- ・ チーム医療、対患者相手の仕事は信頼関係が構築されなければ成立しない。

- ・人事異動が必須の組織であるため、いろいろな価値観を持った多くの職員と仕事をする機会があり、対人関係が求められるため。
- ・対人関係での問題がストレスとなるケースが多く、医療従事者だけでなく患者とも良好な人間関係を築ける人材であってほしい。
- ・治療や業務共に課題解決が自律的に行える力は大切と考えます。
- ・社会人の基礎スキルと考えているため。

## 6. 問題解決能力

- ・問題点を分析し、課題を整理することで、一つ一つの課題に向き合うことができます。様々な問題が複雑に混ざり合い困り感を抱えている子どもやその家族を支援するためには、問題点を細かく、深く、科学的・理論的に分析することが重要と考えます。
- ・臨床的な視点で多様な疾患が複雑に背景がある場合に対応しきれていない。社会的なものであれば、指示を待つのが通例となり、自身の考えの提示が少ない状況。
- ・患者様、家族、スタッフとのコミュニケーションや連携は業務遂行において必須であり、この分野において教育が難しい印象です。
- ・人間力を向上していく上で大切な要素と思っています。
- ・複雑な問題に対してどう思うか質問しても言葉に詰まってしまうことが多い。正解は求めているので自分なりの考えを言えるよう努力してほしい。

## 7. リーダーシップ

- ・病院が目指す事業を先導して頂ける人材がいると助かります。
- ・チームを牽引する能力だけでなく、協調性、主定性を持って立ち回れる事は、どの場面においても重宝されます。

## 8. 倫理的判断力

- ・一般的な概念で適切な判断力が必要。

## 9. 適応力

- ・人事異動が必須の組織であるため、環境の変化に対応する力が求められるため。
- ・他病棟へのヘルプに際して対応しきれない場面もある。やはり指示をまつ場面も多く散見される。
- ・患者の急変、配置転換、診療報酬改定などでルールが変わる事が業務上多くあるため。
- ・支援している子供たちは、一時も休む事無く変化をし続けている。突発的に大きな変化が起きても、迅速に対応することが出来ています。常に全体に目配りの出来るような人材の育成をお願いしたい。現在の職員は、それが出来ています。
- ・基礎学力があっても対人含め適応力が低いと自身も補助者も辛い。
- ・職域の拡大に伴い、おかれた環境の中でどのように専門性を発揮するかが求められるため。
- ・専門職としてよりまず社会人として長期雇用に最低限必要な項目を選びました。
- ・環境にあわせて行動できることが大事。部活動やサークル活動、バイトなど社会的に

適応できたり参加しやすい環境を作ってほしい。

#### 10. 終身学習への意欲

- ・私見だとこの辺りの意欲をもった人材が減りつつあるので貴重
- ・自己から学ぶ姿勢が乏しい。
- ・当機構及び当院では様々なキャリアの選択肢を提示しており、定年退職までに常に自身のキャリアを考え自己成長を図る意欲が望まれるため。
- ・卒後教育で身につけさせるのが難しいコンピテンシーであり、採用においても重視しているから
- ・面談などでは常に伝えているが、自己学習や学会などの参加希望も聞かれない状況。言われればこなすことができるが、自身から進んで講習会などにはいかない、参加しないなどあります。
- ・患者さんにおいても、基礎学力では解決できないことも気づいているのにもかかわらず、自身の限界と決めてその範囲でリハを提供し、それを解決するために何かしている姿や何かに参加や取り組んでいる話を見たり、聞いたりしないため。
- ・入社当初は意欲的であっても、それを継続していくことが大切である。成長を図るためには常に学びの姿勢を意識してほしい。

#### 13. リソース管理能力

経験年数は少ないが、計画を立て、物、人、時間を無駄なく有効に使っているように思います。失敗しても、それを「糧」に出来ており積極的に働いています。

#### 14. ストレス耐性

- ・近年コロナ感染拡大により十分な臨床実習が行えないなどの影響もあったかと思うのですが、勤務にするにあたりストレス耐性が足りない人たちが多く感じます。
- ・組織や患者さんとの関係など、医療人を取り巻く環境は、まだまだ高ストレスであることが否定できません。アサーションスキルなど、適切な知識インプットとロールプレイ経験があるとより安心です。
- ・どのような状況におかれても取り乱すことなく冷静な対応ができる人材育成が必要であると考えます。
- ・社会の厳しさをより感じやすい環境かと思しますので（患者さんやご家族も今までよりも知識もあり、より目が厳しくなっている）、ストレスをためずに遠慮なく他者に相談でき、自分でもある程度コントロールができる能力は必須だと感じております。
- ・リハスタッフの人数も多く回復期リハの特性もあり、チーム医療を推進しているため。
- ・仕事上のストレスはあって当然。一人で抱え込まず上位の者に相談できており、仕事中は気分の浮き沈みなどを表情に表すことはありません。

## 項目指定なしの記述

- ・理学療法士として個人の思考にとどまらず、周りとは協業して業務にあたってほしいため。
- ・現在は中心となって柔軟に動ける人材を求めているため。自ら考え、実行力があればより良い。
- ・自身にPTが向いているかの疑問があるようです。そのため、なかなか前向きにならないようです。患者様を目の前にして自分がどうにかするといった責任感やリハビリテーションの面白さなどが育っていない印象を待ちます。私たちの施設教育の問題でもありますので、共に頑張っていきたいと思います。
  
- ・病院と比べて、スタッフが少ないクリニックにとって、チーム医療は重要となるため
- ・仕事とプライベートについては、上手く管理出来ていると聞いております。多職種や患者様とのコミュニケーションについても円滑に行えていますので、そのあたりは特に補助なく可能です。
  
- ・手前勝手な意見をお許しください。理由は、人間を対象として職務を行いますので、“人間を理解する力”が関与すると考えられる項目を選びました。
  
- ・臨床経験2年目の卒業生をお預かりしています。向上心があり積極的に患者さんのリハを行ってとても心強いです。ただ自己完結型なところがありまして担当OTと相談しながら治療や訓練を進めていくことが苦手なようです。自信を持つことは大事なことです。分らないことや迷うがあれば担当のOTや上司に相談することが必要と伝えているのですがなかなか改善出来ていません。チーム医療の大切さを理解出来るよう今後も指導していきます。
  
- ・体調を崩すことが時折ありました。リーダーシップを発揮する様子は少ない印象を受けますが、自主的に仕事を探し取り組んでくれています。
- ・自己管理に対する意識、学び続けようとする姿勢、何かが起こった時、解決へ向けて努力する姿勢、目標設定について考えようとする姿勢は、質はどうあれ、持っていて欲しいと思います。
- ・自己管理能力や対人スキルが高いと、現場を任せられる事が早くなる。それに伴い他職種との関わりも増える。勉強意欲や、知識、技術は入職後でも共に高めて行きたいと考えます。



## 総評

上位に挙げられているコミュニケーション能力は、患者や家族との関係構築に不可欠であり、他職種との連携を通じて情報共有が重要であるとの意見が多く寄せられています。特に、若いスタッフのコミュニケーションスキルに対する懸念が高まっています。同様に対人関係力も求められていますが、特に多世代との関係構築が難しいとされており。その他、自己管理・時間管理、問題解決力など、まずは座学で学びさらに実践的なトレーニングで身につけられる能力があるので、教育プログラムの充実を検討していきます。

### 3. 本学理学療法学科に関して、ご要望・ご提案がございましたらお答えください。

・卒後教育の方法、専門職として知識や技術をアップロードしていく必要があることを学生に対して指導、意識づけをしてほしい。

・社会に出ることの常識的なこと（報連相やストレス耐性、働くということの意味）を身につけなければならない事、自身で勉強することはPTになってからがスタートであることをしっかりと持つようにして頂ければと思います。

・実習生への配慮が届いており、素晴らしい教育方針と心得ております。引き続き、文理大学の実習生を受け入れさせていただける事を誉と感じております。

・卒業生は2名在籍してくれています。2名とも若手ですが役職者としてチームをまとめてくれています。貴学での勉学をベースとし、臨床経験を経て成長してくれているのだと感じています。

・基礎学力や社会人としての振る舞いは、他の養成校と比べて安心感があり、業務を伝えても理解や慣れるのも早いです。希望としまして、担当患者さんは、自分が担当と最後まで責任を全うし、何がなんでも目標達成に持っていく気概がある次世代の担い手を養成していただけたらと思います。当たり前かもしれませんが、その当たり前では無くなってきたかなと現場では危機感を感じております。しかしながら、教員の皆様には日頃から大変お世話になっておりますので、もっと養成校と顔の見える関係が作れたらとも思っています。今後ともよろしくお願い致します。

・若い皆さんが、希望と意欲を持ち、学ばれ、現場に出て活躍されるようになるわけです。生まれた時代による若者の気質と違いますか…???…10年前の若者とは違うな、と。貴大学卒の職員は、近い将来、後輩を引っ張っていく力をつけ、安心して業務を任せ

られると考える。しかし、就職後2、3ヶ月で、行き詰まり、仕事に来られなくなった若者もいます。子どもの頃から、何かを頑張って（スポーツでも芸術的なものでも）継続してきた若者は、職場での苦労をはねのける力があるのではないか。親、学校の先生以外の「おとな」に叱られたり、注意されたりすることなく「楽チン」な環境で育った若者は、社会人となっても「オトナ」になるには、果てしない時間がかかりそうです。若者に望むこと スマホばかりに時間を費やさず、「読書」をして欲しい、人間の幅をひろげるから。